



ロータリー財団セミナー 報告

ロータリー財団委員会
委員長

宮里 唯子

(茨木西RC)

11月は“ロータリー財団月間”です。クラブ財団委員長は、この特別月間を踏まえて年次基金寄付やポリオ・プラス寄付を会員に依頼されることが多いようです。しかし、寄付を募るだけでは片手落ちと言わざるを得ません。この特別月間の機会に、会員の財団に対する知識を深め、財団プログラム（地区補助金やグローバル補助金を使った奉仕事業、財団奨学生の推薦）への参加を呼びかけて頂きたいのです。

2015年8月29日に開催しました財団セミナーは、立野ガバナーから頂いた当委員会の課題、『寄付をしたくなるロータリー財団』を目標に、クラブ会長と財団委員長に財団に対する知識を深めて頂こうとセミナー・プログラムを準備致しました。

『寄付をしたくなるロータリー財団』の為に、私達ロータリアンの寄付がどのような活動に生かされ、またどれほど素晴らしい成果をあげているのかを知って頂くこと、そして地区のDDF（地区財団活動資金=3年前の年次基金寄付と、恒久基金寄付の利用可能な収益のそれぞれ50%の合計）のクラブへの配分や寄贈分野への拠出の透明性を理解頂くことでしよう。

補助金プログラムやポリオ・プラスについては、2015年2月および同年4月の財団補助金管理セミナーや地区研修協議会にて充分ご説明して参りましたので、今回のセミナーでは当地区会員にとってあまりなじみのない、「ロータリー平和フェローシップ」（平和や紛争解決の分野で国際的に貢献する人材を育成する為の奨学金）を取り上げました。

元平和フェロー（平和フェローシップで留学をした人）に、平和や紛争解決、紛争予防に対する情熱とフェローとしての研究内容、そして現在の平和分野における活動やロータリーとの関わりを発表頂き、年次寄付や寄贈DDFを原資とするWF（国際財団活動資金）により平和と紛争解決という分野でどれほど素晴らしい奨学金制度を提供しているのかを理解頂く事が目的でした。

当日は平和フェロー第3期生（2004-06年、ICU=国際

基督教大学 ロータリー平和センター）のウィリアム・ニーリー（William Nearly）さん（米国ミズーリ州出身・東京在住）に来阪頂き、日本語と英語を交えたプレゼンテーションをして頂きました。彼は現在もボランティア団体に所属し、難民問題や東北大震災の被災児童の支援に携わられたら、2014年にはチャーター会長として東京ピースウィングEクラブを立ち上げ、毎年ICUに派遣される平和フェロー達の支援にもあたっています。

ロータリー平和フェローシップの歴史は約10年、世界で約1,000名のフェローが誕生し、その約95%が国際機関や政府、NGOなどで平和の推進者として世界の各地で活躍しています。

世界のあらゆるところでテロが頻発し、難民問題はもはや他人事ではありません。女性や子供が犠牲になっている昨今、我々ロータリアンの手で平和や紛争解決への情熱と知識を携えたフェローをもっと世界に送り出したいと思います。

各クラブ会長や財団委員長の皆様におかれましては、クラブで過去実施した社会奉仕や人道的国際奉仕活動で関わった協力団体（国際機関やNGO）、あるいはかつてスポンサーをして頂いた元米山奨学生や財団親善奨学生、青少年交換留学生で該当者があれば、是非平和フェローへの申請をお勧め下さい。

元フェローのWilliamさんは、マハトマ・ガンジー（Mahatma Gandhi）の名言でプレゼンテーションを締め括られました。“Be the Change you want to see in the world”（あなたがこの世で見たいと願う変化に、あなた自身がなりなさい）。どうぞ、世界がよりよい場所になるために、子供達が決して紛争の犠牲にならない世界を築く為に、平和という「変化」をもたらすことのできるロータリー平和フェローを御推薦下さい。



ロータリー平和フェロー要件

学業、職業、ボランティア活動を通じて、平和と紛争解決への専心を実証し、高い学業成績を修めていることなどが条件です。